授業改善等に関する報告書（2020 年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS（Lerning Management System）manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

［2020（後期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
芸能文化史	串田　紀代美	コロナ禍で学生の皆さん自身が非常に大変な状況だったにもかかわらず、積極的に学修に取り組んでくださった方がいらっしゃったことは大きな励みになりました。残念なのは、授業アンケートの提出率が低い点です。若い世代が古典芸能に対し興味を持てなくなっている状況を考慮し、シラバスを工夫する必要があることを実感しました。その中でも、学問としての「芸能」や芸能に携わる職業に興味を持ってくださった方がいたことは、何よりの収穫でした。
日本美術史入門ｂ	仲町　啓子	遠隔の授業で教員も大変でしたが、学生の皆さんもたいへんだったと思います。しかしながら、大多数の方が頑張ってついてきてくれたと思います。速度が速すぎたという意見が少数ありましたが、学生さんの顔の見えない授業で、速度の調節はかなり困難です。
西洋近代美術史特講ｂ	六人部　昭典	第1回の授業を除いて、オンライン授業。アンケート（回答率80%強）を見る限り、概ね、内容は伝わったと思われる。ただ、集計結果・個別意見の両方に、授業進行の速さについて言及があった。ノートテーキングの不足は、オンデマンドによる復習で補ったようだ。次年度は対面に戻るので、授業内での理解確認と、復習の確保を重視したいと思う。
日本近代美術史入門ｂ	児島　　薫	熱心に授業に取りくんでくださいました。興味を持ち、予習もしっかりしてくださった方が大変多く、うれしい結果です。そのため試験結果も全体に良い得点となりました。一方で、予習時間が少ない方も一定数いたことがわかりました。今後は、別の授業でも、もう少し具体的に自習方法をお伝えするようにいたします。
民俗芸能入門b	串田　紀代美	慣れないオンデマンド型授業に加え、後期は動画配信が遅れてしまい、履修者のみなさんにはご迷惑をおかけしました。それにもかかわらず、「民俗芸能」や「民俗学」に興味を持ってくださった方が多く、また教員に対して折に触れ思いやりの言葉をかけてくださり、大きな励みになりました。次年度は、みなさんにとって「民俗芸能」がさらに身近に感じられ、興味が深まるよう工夫していければと思います。
日本近代美術史特講ｂ	児島　　薫	リモート授業ではありましたが、授業内容に興味を持って熱心に取り組んでくださった様子がわかりました。また内容にも満足していただけたようで良かったです。ただ、回答者が少なかったので、次回は、もっと呼びかけるようにします。
卒論ゼミｂ	椎原　伸博	コロナ禍のなか、全員無事卒業論文提出が出来ました。本来であれば、卒論試問は対面で行うところ、zoomで行うことになりましたが、それぞれの研究成果をしっかりと答えることが出来たと思います。卒業後に、卒論を書いた経験を活かすことが出来たら本望です。
卒論ゼミｂ	仲町　啓子	アンケートのこたえてくれたのはお一人でしたが、みなさんそれなりに頑張ったと思います。
卒論ゼミｂ	宮崎　法子	回答してくれた人が少なく残念でしたが、回答してくれた３名の学生さんありがとう。人によって状況が違うと思いますが、みんなそれぞれ頑張って、しっかり卒論が書けてよかったです。 今年は対面授業がほとんどできなかったので、指導にも限界がありましたが、今後、平常時でもzoomやマナバを活用した方が、就活との両立などもしやすいかもしれないと思いました。 また、何かアドバイスがあったら知らせください。 今後、それぞれの道で頑張ってください。
卒論ゼミｂ	六人部　昭典	本年度はオンライン（zoom）による卒論指導になった。アンケートを見ると（回答率は40%弱）、概ね不十分な点はなかったようだ。卒論の作成も順調だったと思うが、各々の進捗状況に応じてzoom面談で示した課題に、学生たちがしっかりと取り組んだ結果に他ならない。来年度は体面に戻るが、双方が課題を共有することが重要だろう。
中国美術史特講ｂ	宮崎　法子	今回のようなオンライン授業のなかで、皆さんの頑張りによって、例年より、理解度が高くなっていることが分かりました。 対面になったとき、これが維持できるか、オンラインのよいところを組み合わせて授業を考えていきたいと思います。 興味をもってくれた人は多かったようですが、演習の希望者が非常に少なかったことは、やはり何か工夫が必要だったのでしょう。 それに対する提案や要望を書いてもらえるようなアンケートを設定すべきでした。また、別の機会でもいいので、意見を聞きたいと思います。
日本美術史演習ｂ	仲町　啓子	遠隔授業の演習は大変でしたが、TAが加わってくれたので、従来とは異なった形でしたが、さまざまな角度からの意見は聞けたのではないかと思います。

［2020（後期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論ゼミｂ	児島　　薫	今年度は学期はじめに緊急事態宣言が出され、図書館が使えなかったため、とても苦労されたことと思います。デジタル資料を紹介しましたが、自由に文献を渉猟できなかったため、夏頃までは影響がありました。後半よく追い上げて無事みなさんしっかりと卒業論文を書き、提出できてよかったです。アンケートにはもう少し回答していただきたかったところです。
卒論ゼミｂ	駒田　亜紀子	今年度の卒論ゼミは前期に図書館を利用できない日が続き、後期になってそれを挽回するために苦労が多かったことと拝察します。そうした困難の中で、皆さんはよく頑張って卒論を完成させたことは、大変に立派だったと思います。
卒論ゼミｂ	武笠　　朗	回答がゼロでした。コメント不能です。
西洋近代美術史演習ｂ	六人部　昭典	第1回の授業を除いてオンライン授業（２回の学授業を実施）。後期は学生発表が中心だが、アンケート（回答率66%強）を見るかぎり、概ね、順調に進められたようだ。「レポート・相互閲覧」で発表レジュメを事前に確認することも、プラスに作用。とはいえ、zoomのためディスカッションが円滑でなかったことは否めない。次年度は対面に戻るので、授業内の討議を通した理解確認と、見学授業を重視したいと思う。
グローバル・アートスタディズｂ	五十嵐　ジャンヌ	学生の自己評価はバラツキがあるが、授業内容と方法は高評価いただけました。今年度試みたオンラインによる双方向授業では、学生は特別な緊張感を持って授業に取り組んでいるような印象を受けました。
民俗芸能ｂ	串田　紀代美	慣れないオンデマンド授業に加え、後期はシラバスどおりの動画配信ができず、履修者のみなさんには大変ご迷惑をおかけしました。授業アンケートの回収率が低く、正確なコメントができないのですが、説明やパワーポイントのわかりやすさは比較的高い評価が得られたのではないかと認識しています。若い世代にとって、興味が持てるようなシラバスを工夫することが今後の課題だと認識しました。
デザイン実習ｃ	下山　肇	授業のテーマであった「Mac、Adobeを使用したデジタルデザイン」についてと、平面デザインにおける基本的な「色面構成」について概ね理解が得られた。 また、前半は施設附帯のコンピュータを使用しての制作のため対面授業、後半は絵の具を使った自宅での双方向授業という形態で行ったが、特に双方向授業では、遠隔会議システム特有の、より個別的な指導ができた上に、自宅での制作のため「自分のペースで進められた」や「余裕を持って制作できる時間が取れた」などの意見が多く、できるなら対面授業に囚われず、今後の授業でも取り入れたい。
西洋近代美術史入門ｂ	六人部　昭典	第1回の授業を除いて、オンライン授業。アンケート（回答率90%）を見る限り、概ね、内容は伝わったと思われる（学生たちもzoom授業の要領が掴めたのだろう）。ただ、集計結果・個別意見の両方に、授業進行の速さについて言及があり、オンデマンドによる復習で補ったようだ。次年度は対面に戻るので、授業内での理解確認と、復習の確保を重視したいと思う。
中国美術史演習ｂ	宮崎　法子	私のお願いの仕方が悪かったためか、回答者が少なく、反省しています。もう少し、皆さんの声を聞けるとよかったと思います。 演習の方法について、どの形式がよいかという質問に、 誰も対面と答えていなかったのが印象的でした。 今回の双方向とオンデマンドのやり方で、理解度や学習到達感がかなり感じられたようです。対面で、作品（複製）を前に話し合ったり、展示作業をするという例年のやり方が出来なかったのですが、それなしでも、成果が出たことは、よかったと思います。 ただ、結果として、中国美術ゼミに進みたい学生さんが、少ないことも明らかになったので、その原因について、もう少し皆さんの意見が聞けるようなアンケートの実施をすべきでした。 私としては、やはり作品を見ながら対面授業が出来なかったことも、興味をもつ人が少ない原因かもしれないと思うのですが、今後のために、皆さんから要望やアドバイスがあったら知らせて欲しいと思います。アンケートでそれを答えてもらえるように、今後、このアンケートの仕方も工夫します。

［2020（後期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
中国美術史入門ｂ	宮崎　法子	結局zoom授業となりました。そのため、複製による展覧会も折角準備し展示はしたのですが、ほとんど見学してもらうことができずに、残念でした。小さな画面だけでなく、作品を体感することがとても大切になるので、来年度の展示は、もう授業を取っていなくても是非見て欲しいと思っています。 zoomでの授業は、毎回小テストをしたりオンデマンドで見られたりしたため、例年よりは、多くの内容を扱えた上に、理解度も上がっていました。 今後、対面授業に戻ったとき、今年並の理解度を維持すると同時に、作品の魅力を知ってもらえる機会が増やせるか、どのような工夫が必要か、考えていきたいと思います。
日本美術史特講ｂ	仲町　啓子	双方向授業に難があったことは否めません。講義形式の、１００人以上の学生さんが聞く遠隔授業で、しかもほとんど未経験の遠隔授業で、双方授業の形式を整えることは困難でした。
日本近代美術史演習ｂ	児島　　薫	後期の授業は各自の発表が中心となりました。みなさん配付資料もよくでき、それぞれのスタイルの発表はお互いに刺激になったようです。毎回の感想やコメントにはいろいろ書いてくださいましたが、オンラインだったためか、授業内での発言が少なかったことは、今後の課題とします。
入門演習	串田　紀代美	入学年度の授業がほぼオンデマンドとなり、苦渋を味わった一年であったと思います。その中で、大学生にふさわしいレポート作成技術を身につけようと、みなさんが必死に努力し、真摯な態度で授業に取り組んでくださったと認識しています。最近、ネット上の誹謗中傷など「言葉」による暴力が後を絶ちません。この授業を通して、言葉に対して慎重に向き合い、自分で考え、言葉の選択に責任をもつ態度が身につくよう、次年度以降も工夫していきたいと考えます。
絵画実習ｃ	織田　涼子	配布資料や説明の分かりやすさについて評価が高く、授業見本を新しく改善したことが、日本画で描く力が身についたという成長実感につながったでことは嬉しい限りです。次年度は、制作の見通しを立てやすいように配布資料をさらに工夫し、制作の進行スピードを改善したいと思います。
美学特講ｂ	椎原　伸博	アンケートの回答率が低いのですが、アンケート結果をみると、全体の理解度はほぼ平均的なものとなっていました。個別コメントをみると、私の研究休暇の件が書かれており、その点については、申し訳ございませんです。ただし、国内研修ですので、なにか美学や芸術学に対する質問がありましたら、shiihara-nobuhiro@jissen.ac.jp に送信してください。出来るだけ、対応したいと思います。
仏教美術史演習ｂ	武笠　　朗	回答者2人は困りました。アンケートにきちんと答えるように指導できなかったことを反省しています。授業の双方向性については引き続き課題です。学生の発表の感想を書かせたのですが、パターン化してあまり意味がなくなってしまいました。よりよい方法を検討します。
入門演習	串田　紀代美	入学年度の授業がほぼオンデマンドとなり、苦渋を味わった一年であったと思います。その中で、大学生にふさわしいレポート作成技術を身につけようと、みなさんが必死に努力し、真摯な態度で授業に取り組んでくださったと認識しています。最近、ネット上の誹謗中傷など「言葉」による暴力が後を絶ちません。この授業を通して、言葉に対して慎重に向き合い、自分で考え、言葉の選択に責任をもつ態度が身につくよう、次年度以降も工夫していきたいと考えます。
西洋美術史入門ｂ	駒田　亜紀子	後期の授業もほとんどがオンデマンド形式でしたので、質疑応答などにどうしても時差ができてしまい、質問しづらかったこともあったと思います。そうした中で、レスポンを通じた事後学修とフィードバックは、皆さんの成長を後押しする重要な場となったはずです。これに自信を得て、これからの成長につなげてください。
絵画実習ｂ	織田　涼子	授業内の講評会では、材料や技法への理解が深まり、表したい内容を描くことができたという感想が多くありました。木版画の制作に時間がかかったため、次年度は配布資料や質問のしやすさを工夫し、制作の進行スピードを改善したいと思います。
仏教美術史入門ｂ	武笠　　朗	回答者数52は少なかった。回答時間をしっかり取ったつもりでしたが、徹底しなかったみたいで反省してます。それから授業の双方向性ですが、manabaを利用することで昨年度よりはかなり改善されたと思います。ただまだまだです。講義系科目なのでなかなかむずかしいのですが、TAの手助けを借りてこちらからの返しができればと考えます。
西洋美術史演習ｂ	駒田　亜紀子	対面での質疑応答を授業の基本形体とする演習で、双方向授業主体の授業を行うにあたって、皆さんも戸惑われたことと思います。他の学生の課題発表に対する積極的なコメントは、オンライン授業ならではの成果だったと思います。これを4年次の卒論ゼミでも生かすようにしてください。

［2020（後期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グローバル・アートスタディズｅ	横山　奈那	英語のテクストを読むという難しい授業でしたが、全体的に予習もきちんとなされており、読解力や課題に関しては成長もみられました。授業で学んだことを今後、英語を読む際に役立ててもらえたらと思います。
西洋美術史特講ｂ	駒田　亜紀子	今期の授業も、ほとんどオンデマンド形式で実施しましたので、画像が小さく見難い箇所もあったと思います。そうした中でオンデマンド配信を活用して理解を深め、比較的なじみの薄い内容に興味をもって取り組んでくださったのはとても良かったと思います。
美学演習ｂ	椎原　伸博	回答が５名のみなので、全体の理解度を確認することは出来ないと思いますが、図をみますと平均より低かったようです。この授業は、グループ学修を中心とするものでしたから、zoom のブレイクアウトルーム･を訪問する授業の限界を感じていました。TAさんに入ってもらい、積極的なディスカッションを模索しましたが、この部分では対面授業のようには上手くいかなかったのでしょう。皆さんは、これから卒論を書くことになりますが、来年研究休暇で皆さんの卒論をみることができず、大変申し訳ないです。それぞれの卒論ゼミに入っても、国内研修でありますので、いつでも相談することは可能です。もし卒論に対して、質問等がありましたら、遠慮なくshiihara-nobuhiro@jissen.ac.jp　まで連絡してください。
卒論ゼミｂ	織田　涼子	授業の満足度は高く、制作への理解が深まったと思いますが、自己評価は平均より低く、成長を実感できるような課題の提示方法についてさらに工夫する必要があると思いました。次年度は双方向授業の方法を改善したいと思います。
美学入門ｂ	椎原　伸博	おそらく、美学入門ｂはaより難解であったと思います。しかし、今までの経験でいえば、１年生の時には理解出来なかったことが、３年生の演習の時に、ああ　あのことはこんなことを言っていたんだ！と、納得する姿を今まで沢山みてきました。なので、今後の学修によってそれが解決することがありますので、悲観する必要はありません。無論、美学特講や演習の授業を受講せずに、わからないまま卒業していく人の方が多いかもしれませんが、授業であつかった基本的な用語については、是非覚えておいてくれたらありがたいです。たとえば、テクネー、ミーメーシス、バウムガルテン、判断力批判、崇高、関係性の美学等々といった用語です。芸術とは、ミーメーシスのテクネーであることが基本ですので、もしこの時点で既にわすれているようでしたら、模倣的再現としての芸術という視点を記憶に留めておいて下さい。
デザイン実習ｂ	下山　肇	回答から、それぞれの成長の実感が得られ、内容にかなり満足できたことが感じられる。 特に具体的な制作に対する技術的な域を超えて、「意味」を見出すこと、「価値」を作ること、「自信」を持つこと、「肯定」することができるようなったことは嬉しい。 また今後はさらに、その感覚をどのように第三者の共感に繋げるのかについて学習を進めたい。
絵画入門ｂ	織田　涼子	多くの項目で平均より高い評価を得ることができ、課題の提示方法を工夫したことが、木炭デッサンによる立体感の表現方法及びポスターカラーでの描画方法などに理解を深め、制作の力が身に付いたという成長実感につながったことは嬉しい限りです。次年度は、配布資料及び制作中の双方向授業を改善したいと思います。
デザイン入門ｂ	下山　肇	前期の入門a、後期入門bを経て、制作に必要な基本的な道具の使い方や、制作環境を作ること、制作に対する姿勢について学習できた。 また、「さまざまな方向や角度から」や「別の視点」、「論理的に思考する力」「偶然性からの発展」「決まった枠組みの中からの工夫」など、いわゆる「デザイン思考」についての意識付けができた。 このことは狭いデザイン分野に限ったことではなく社会でも通用する思考なので、今後の実習授業によってさらに深め、広げてもらいたい。 「板書などオンライン上にあげてほしい」や、「もう少し例を示してほしい」という意見もあったが、今後考慮していく。
絵画入門ｂ	織田　涼子	自己採点が高く、素描や絵画制作の技法や材料に関して理解を深め、成長を実感できたことは嬉しい限りです。多くの項目で平均より高い評価を得たものの、新しい取り組みに関しては、配布資料や制作中の双方向授業を工夫し、制作過程の説明を改善したいと思います。

［2020（後期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
デザイン入門ｂ	下山　肇	前期の入門a、後期入門bを経て、制作に必要な基本的な道具の使い方や、制作環境を作ること、制作に対する姿勢について学習できた。 また、「さまざまな方向や角度から」や「別の視点」、「論理的に思考する力」「偶然性からの発展」「決まった枠組みの中からの工夫」など、いわゆる「デザイン思考」についての意識付けができた。 このことは狭いデザイン分野に限ったことではなく社会でも通用する思考なので、今後の実習授業によってさらに深め、広げてもらいたい。 「板書などオンライン上にあげてほしい」や、「もう少し例を示してほしい」という意見もあったが、今後考慮していく。
卒論ゼミｂ	下山　肇	４年間の集大成として相応しく、有意義な1年間を過ごすことができたようである。 今までの学びを十分発揮しながら、自分から自発的に行動することや、自身の成長の実感が得られたことは大変喜ばしい。 卒論ゼミを修めた皆さんの未来に、幸多きことを願う。